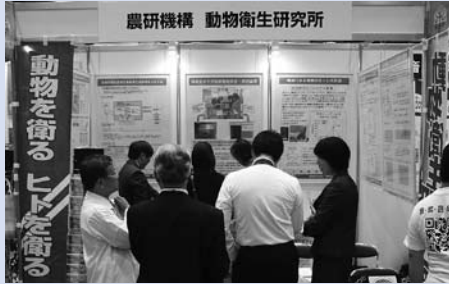


## TOPICS

## 「アグリビジネス創出フェア2008」に動物衛生研究所が出展

「アグリビジネス創出フェア2008」が平成20年10月29日(水)、30日(木)の両日、東京国際フォーラム(東京都千代田区丸の内)で開催されました。農林水産・食品産業分野における共同研究の推進、



技術開発とその実用化・産業化の一環として農林水産省主催で開催されたものです。本フェアは今年で5回目ですが年々盛況になり、今年は民間企業、大学関係機関、公的団体(独立行政法人等)等221団体が参加し、フェア全体で1万1,000人を超す来場者がありました。当所からは次世代製剤開発チーム、生産病研究チーム、疫学研究チームから、①豚胚の体外生産と非外科的移植技術の実用化をめざして、②堆肥の腐熟度の簡易判定キット、③家畜の組換えサイトカインを生産、④携帯

型の牛用脳幹機能測定・解析装置、⑤抗生物質に代わる抗菌剤の開発、⑥危機管理型家畜伝染病発生地図表示システム、⑦唾液による動物のストレス評価、の7つについてパネル展示、実演、成果発表がされました。当所のブースへも500人以上が訪れ、連携相談等が盛んに行われました。

本フェアは農業研究分野との交流の他、思いもかけない分野からの共同研究の提案があったりすることから、今後とも積極的に参画していきたいと思っています。

(研究管理監 産学官連携担当)

## 農研機構シンポジウム「DDSが開く新しい家畜の疾病防除」を開催

平成20年10月31日、秋葉原コンベンションホール・コンファレンスルームにおいて動物衛生研究所主催の農研機構シンポジウム「DDS(ド



ラグデリバリーシステム)が開く新しい家畜の疾病防除」を開催しました。このシンポジウムでは農水省の委託プロジェクト「安全・安心な畜産物生産技術の開発」でDDSの課題に取り組んだ担当者から膜融合リポソーム、多相エマルション、腸溶性カプセル、無機マイクロカプセルについての解説と研究成果の報告があり、話題提供としてイオン液体が紹介されました。今回は民間企業や民間団体所属の方を中心に100

名を超える参加者があり活発な質疑が交わされました。参加された皆さんには家畜疾病防除に向けたDDS研究の現状と可能性について理解を深めて頂けたと思います。主催者側も、獣医学分野においてもDDSに対する関心が高まっていることを強く感じるとともに、今後さらに研究を推進する必要性を再認識することとなりました。

(次世代製剤開発チーム長

犬丸茂樹)

天然資源の開発利用に関する日米会議 (UJNR)  
第43回家畜・家禽疾病専門部会日米合同会議の概要

第43回UJNR家畜・家禽疾病専門部会日米合同会議は米国アイオワ州エイムズ市のNational Animal Disease Center(NADC)において2008年10月15日に開催されました。日本からは動物衛生研究所の山口成夫研究管理監、村上賢二上席研



究員、秋庭正人主任研究員の3名が出席しました。会議はNADC所長のDr. Zuelkeの開会挨拶に続いて、National Veterinary Service Laboratories(NVSL)所長のDr. Lautner、Center for Veterinary Biologics(CVB)所長のDr. Hill、日本側代表の山口研究管理監の挨拶で開始されました。発表は21演題(日本側から8題)あり、1)家畜におけるサーベイランス及び慢性疾病、2)家畜のウイルス性疾病、3)家畜の細菌性疾病、4)家畜の胃腸生態及び関連病原体、の4セッション

に分かれ、それぞれ活発な討議がなされました。会議は日米両国代表による決議書への署名がなされ、無事終了しました。会議終了後、建設中のNVSL、CVB及びNADCの共同研究施設であるNational Centers for Animal Healthの動物実験施設(BSL2、牛100頭規模)を見学しました。さらに、ジョージア州所在のSoutheast Poultry Research LaboratoryのDr. Swayne所長を訪問して鳥インフルエンザに関する情報交換を行い、全行程を終了しました。

(研究管理監 国際研究交流担当)